



TO ALL
Aloha

いちらうの
よまひこと

at AMACHE, COLORADO

星 本河晴殿

一九四五・七・廿一

今更一夜

いぢるうのおまひ言

郊外のまはりの子と遠く旅のて好い

倉いふと糸をさぶたじよいな雲皆なかり

何か書くと頼はれて窓外を眺めた

きちかゝ風も吹きまじりな静かな夕暮り

暮るる空は白くたつた昔は遠くは遠く

おまじじいとのほりがき

濕氣の多いアーカンサス州のジローム転住所を出てグラナダ転住所(こゝ)への汽車の旅は自分をととも朗かにした。途中ミゾリ州スプリングフィールドは息子三郎が勉學した地であつたし、目の覺むる様な山野の草花と共に自分の心をいやが上にも踊らしたものである。だがこゝへ着てポツンと兵隊ベツドへ腰を下ろして悲しさを覺えた。パイオニアへ入社して無二の友久保田豊氏を得て欣んだ新聞を作つても思ふ様にかず惱んだがいつも畏友久保田氏にはげまされて涙しつゝやつた事も思ひ出だ。鉄筆部にとても熱心な濱川氏を得た事は自分は大きな悦びとした。布哇の帰還もいつの日にか來るであろうとの淡い望みの裡にうかりくといを送つてゐる。そしてその日に備へてお世話になつた人達へ置土産をと思ひついでよまひ言を集めて小冊を作つて見る氣になつた。濱川氏に鉄筆を頼んだら悦んで引受けると言はる。久保田氏に校正を頼み問題の表紙はシルクスクリーンが閉ざされて困り抜いた揚句マイク和田に頼んで見たら氏も悦んで引受けて呉れた。皆がよくして下さるので御禮の申し様もない。アロハのつもりで集めたもの。深い興味を持つて貰へないを知るが、まあこんな男も友の一人であつた位に、軽く讀んで貰へたら嬉しい。

今野氏を送る 久保田

戦雲一度漲つて常夏の國布哇の碧空を焦してより既に三星霜を
半ばし、吾人の生睡は急転して鉄柵裡に忍従の生活に余儀なく
されて今日に至つてゐる。斯うした異常的境遇に在る我々は動
もすれば常識を缺き、常軌を脱し、個人主義的風潮に乗じて他
を捨て、省みず、而も利己の爲には人を誹謗し之を毒して酷と
として恥ぢざる者多きに寒心之を久しふし、常に警鐘を打つて
濁世の肅正と指導に邁進する先覚者の出現を希求する憂深かつた。
昨夏六月探觚界先覚の士今野氏を當所に迎へ、七月本社日才語部
編輯長に仰ぎ得た事は自他共に会心の事實であつた。

爾來氏は或は社説に或は茶説に又一般的報道陣に於て破和顯正
を標語として硬軟諧謔、往々可なりざるはなく、堂々の論陣亦
他の追従を許さず、警世に努め吾人の希求に遺憾なく應へて
る事は詢に敬服に堪えぬ處である。釋尊の遺訓、会者定離の事實
が近く實現し、氏は將に布哇帰還に備ふるの多忙時に當り、其論
説を蒐録して記念刊行に精進中であるが、吾人は氏の大乗的心
構と熱血に燃ゆる同胞愛の發露に對し、满腔の敬意を表し、併せ
て訓えらるゝ處多かりし氏の敬虔真摯なる心構に應へん事を念
願して已まぬ者である。世に逆も亦真なりと云ふ事がある。
吾人は今愛別離苦に沈むも再会の日庶かれと祈る。

わかれのことは

布哇への帰還の日が決定した、
もう皆さんとお別れです。
またあふ日までどなたも御元
気で、これで別れの言葉となる
んですけれど、満一ヶ年も居候と
してお世話になつて、一々挨拶
して帰りたいが、タキシの便も
ありません。この暑さに、タクシ
ヤフトモビルも容易な事でない、
皆さんお世話になりました。ア
リガトウ存じます。殊にこの小
冊子を作るに大きな労力を提
供して呉れた濱川茂次郎氏、表
紙のデザインからプリントをして
下さった和田道彦君と、中野長
次、重富敏支、西氏そして尊友、久
保田氏にマハロマイの言葉を
捧げます。終りによまひごと、

とは世迷言と立旅に辞典に載
つてゐて方言でない事を記し
て置きます。ではどなたも御機
嫌よろしく、日本へお帰りにな
る時はホノル、に是非立寄つて
下さい。案内と、パイナップルの甘
味しいの位は、どうにかなると
思ひます。

こゝまでかいたが
まだ帰還の日も決定しないの
に、こゝな挨拶を書くのは、つら
いでも、鉄筆の濱川氏の都合も
あつて、よまひごとも之で終り
とするが、また縁がありました。
ら、ホノルタイムスをおよみ下
さい。帰還後つゞいて三年ハケ
月間のよまひごとを書くつも
りです。アロハ、い、ちろろ

アマチ 6 E 3 A

P.O. BOX 1230 HONOLULU

五口等の心構へ

太平洋戦が五年目に入った、其の終局は世人の予想を裏切つて五里霧中の形である。直接の影響を持つ我々同胞は、斯くも長びくとは夢想だにせず、来る日も来る月もその終局の早からん事を念願してゐる。

戦術家の予想とし、日本を倒すにはもう五年はかゝると、又或る町の参謀は此の戦争は十八年かかると言ひ、問題を起こした事もある。誰人の予想も許さず、只神のみが知る今次動乱の終局、吾人は終焉の日に備へる。十分の周到なる用意がなく、はなならない。新年を迎えて一層、その心構へと痛感せしめられる。

水魚の交を想ふ

大海に棲んでもイロシは鰻泥水呑んでも鯉は鯉である。水なくして棲息する魚類のない事實は、三つ子でもえを知るのてある。水魚の交りは、虞世詡の「魚を飾り親密さを語る吾人の味ふべき金言である。」

夫婦兄弟姉妹、殊に親子の間は、水魚の間柄のそれより尚ほ緻密でなく、はななりぬ。況んや一と二の間に於ておやである。一と二とに見えざる小溝、その教育と環境は、東西文明の差異に邪魔されて、一と二を二とを二とを二とに、は言へず、ペンには現はせぬ。謎に似た、或るものに打突かつてあるのを認める。

新年郷への寄書

可興へらるべき自由が意外のセシヤーションを巻き起した如く、

筆者ヘンリト草場君は若き女性
から教通の感謝に似た手紙を受
取つた内容は何れも同感を語り
種々の实例を記してゐる、親御達
からは抗議とか誡めの書簡には
接してゐないがと彼氏は言ふ、
吾人は斯うした实例を目前に見
せつけられ、切実に木魚の交りの
金言なるを思ふのである。

無責任の言辞を慎む

撤退令の解除布告に伴ひ吾等陸
忍自重の生活を續けてゐる十余
万の同胞は悲喜交々の感を抱い
て今彷徨してゐる、郷家への帰
還は誰もが望んで已まぬ待望の
快報であつたに相違ないだが此
の際輕率の妄動は大禁物である
と想ふ、
當局は帰還轉注プログラムの進行
に總ゆる便宜と援助を惜まぬと

先般發表されたステートメントが明
かにしてゐる、
同胞は平和到来の新時代に備ふ
べき將來を誤らず悔ひのなきプ
ランを樹てねばならず大きな心
構へを以て所決せねばならぬ大
きな責任を持たされてゐるのに
沿岸の諸新聞は日系人の帰還に
關し賛否両論を掲げ、吾等同胞
をして迷はざるを得ぬ立場に置
過せしめてゐる、情報は噂を産み
噂に尾がつき鰭が生えて遂に
は本物となつて所内を泳ぐ、噂は
往々にして尊き人命の生殺を行
ふ、同胞は大きな隘みに直面する、
斯の重大期に當りテマは大禁物
であり慎重であらねばならぬ、
吾人は此の土壇場に際してお互に
無責任な言動の慎む可きを惟ふ。

使命の尊さ

精神の修養に、日常生活の上
に羅針盤としての重責を務める
宗教の方も、今次大戦に於ては
二層に別れて民衆の指導と教
化に盡してゐるその貢献の大
なる、殊にセンター生活を余儀なく
されてゐる同胞の爲新機軸的な
奉仕を捧げる宗教家を尊敬し感
謝の意を敬げてゐる。

吾等も之等殉教の士に對し讚
辭を呈するのである。

沿岸撤退令解除布告後の或日、
『同胞宗教家の海外布教初期を
顧みる時同胞が汗水垂らして漸
く地盤を築き上げた頃、よくと乘
込みやれ布教場の新築、それ庫
裡が必要と同胞の喜捨を乞はざ
るなきであつた、予期はしてゐた
もの、突如として解除令は同胞
をして其の去就に迷はしめ、郷
家へ歸り度いは山々なれど、』

此の疑問に答へる大きな使命は
宗教家にありと思はれる。現地
に至り実情の調査、否、一歩進んで
現地に定住し開拓の重任を負ふ
ては如何、初期布教時代の逆を行
かれては、何をどうしてゐる、勇
んで行き給ひと進言した。此の暴
言を吐いた記憶は未だ新しい。
一宗教家は同感ではあるが現
地に赴くには唯一の武器とする英
語が解らぬを如何んせんと言ふ。
精神誠意、偉大なる宗教の力を以
てせば言語何者ぞ、君行き給へ
と再言したのであつた。あまりに
も突飛な言動である如くにも考
へられるが、靜かに喋つて欲しい
氣もする。

疲たれかぜ

風にやられて何も出来ないのに、
半日づい社に頑張つてゐたが、咳

をすする、涙が出る、涙が流れるとい
つた騒ぎで、同人達あり和麿ばかり。
そして過ぎた二週間は自分にと
つて一番苦しかった。戦争突發以
來の大事件であった。漸く生れ変
つた氣分になつてペン を走らす
氣になる。四三年十二月廿一日ミ
ゾラの病院に入院した。その時モ
風だつた。熱が百四度にかぼつた。
とて隣のベッドの筒水藥劑師(シ
トル)の人は平常でも丸過ぎる程
の眼を丸くして、こりやいかんと
早速アンビュランスを呼んで入院さ
してくれた。インター生活は野郎
共ばかりで、皆兄弟の如く助け
合ひ所謂生死を共にするの生
活である。自分は柳に雪折れな
し組の方で廿五六年医師の厄
介になつた事はなかつた。それ
なのに孤独を味ふ身分となつ
て俄かに弱くなつた様な感が

する。年のせいから知れないが殊に
センター生活に入つてその感を深く
する。そして環境は私をぐんぐんと
孤独へと追ひ詰めてゐる。かの如
く想はれてなうぬ。
センター生活とは地獄と極樂と
娑婆と、その外に位する一つの邊
つた社會である。總ての自己本
位、自己に反く者、これ初、自己に味
方せざる者、これ悪魔の如く考へ、
人情は紙の如く常識もそつち除
け、只自分本位に生きるのが所謂
センター生活の姿である。何れに
せよ、センターも今年一杯には名
スされる。自分も何時の日にか、ハ
ワイへ帰れるであらうが、帰へつ
たらあの懐かしの芝生の上、大
の字にひつくりかへつて、蒼空を
眺め、そして大氣を胸がふくらむ
程、吸ふて見たいと慾を云ふ。これ
も風のよくなつたせいだ。

名花のほまれ

下がる程おほ名の上る藤の花、
何んと優雅にして崇高なる氣の
溢れ、教訓を豊に包容する名句で
ではないか。吾人は斯うした因
ほれに似た生活の中にも靜かに
味ふべきであるを想ふ。
忍従の心謙遜の行ひ其の裡に
も嚴として肩し難きの精神これ
こそは吾等大和民族への天典の
心であり、即ち藤の花の心であら
ねばならぬ。

センター生活に下る程をモットー
とし黙々と地下働きにある御人
を見受けるがそれは決して卑屈
であつてはよくない。

時來りなばの精神を忘却せず、
修養を積まねばならぬと考へる
今や沿岸へ帰還の道は拓けたり
と雖も同胞は去就に迷ひつゝも

將來を決せねばならぬ大試練
の秋に遭遇してゐる、咲くべき
時に咲き散るべき折に散つて
こそ名花そのものゝ尊さを知
る。

吾人は同胞百年の計を建て
るに當つて指導者よ、召されな
ば立つて勇敢に指針の役を盡
せよと叫ばざるを得ぬ。

土に親む心

土に親む心、それは自然を
愛し、自然に親むの心であらね
ばならぬ。

大自然が抱容する所の地の
室が己れのかで産み出さす、
その營みの尊きことよ、吾等は
農の勞働の如何に尊きかを認
識せねばならぬと考へる。殊
に斯うした乱世に於ては、自づ
から人心は乱れ、怠慢に流れ易

く、樂に吾氣に自己を保護し而して平和の日を待たんとする心に支配さるもののである。こうした零團氣の中にも、同胞の爲なら一肌もふた肌も脱がうとの氣概から卒先して農園労働を志望し馴れぬ地で努力されし當センターの入々の誠意に自然と頭の下ろを覺へる。

過去ニケ年に亘りその耕作地よりの收穫は斯道の専門家を以て舌を巻かしむるの好成績であつたと聽く、吾人は日本人なればこそとの譚辭を呈するに吝かでない。農園就働同胞の努力の現はれは吾等の食膳に供され保健上如何に大いなる貢獻を齎したかを想ふ時、吾人は農事部の閉鎖に當り衷心より感謝の意を捧げらる。

マイヤ局長を迎ふ 二月十日

6

マイヤ局長の當所來訪は今回を以て四回目と記録は示してある。過去の來訪は主として所内の安寧秩序と維持に關して慈父の如き心境から直接吾等と會談又は訓辭を與へた。過去のものであつたが所民はその温情の溢るゝ誠意に敬意を表してゐたであらふ。殊に這般の解除令布告以來、東奔西走、全く席の温る暇なき迄、各地に出張各種團体の集會に列して、市民の覺醒と啓蒙運動に努めし大さな事實は吾人の感謝する所である。

今回の來訪は獨り立ちをして、社会に巢立たせんとする我が子に誤らざる將來の方針を

教へんとする爲の如く思へる。
親として我が子の將來を思はざらばない殊に我々同胞は沿岸より根こそぎ立退かされた深浪の民と云つてもよい程惨めな経験者である事を知るは、局長の入てあるマ氏は強制出所は奨めず又本年中は閉鎖せぬと声明してある。吾人は如何なる援助をきかざるとも氏の來訪を歓迎する。

朝寝の迷案

若い時から朝寝の好きであつた自分は眞珠湾爆撃事件突發の翌朝から早起に轉向せしめられた。それは悲しい大きな一身上の大事變の如く思はれる。毎朝五時半に起され、目をこすり乍ら黙呼の列に並ぶ。朝寝する者の習慣と

して夜つびりがつきものである。それなのに夜は日が暮れると天幕に追ひ込まれ、八時になると小聲でも話せば一切嚴禁と云ふ。珍らしい新らしい境遇に置かれた。そして、七十三日目に、ホノルル出帆、米本土へ護送された。そして、桑港、エンゼル島に草鞋をぬぎ、其處からウイスコンシン州のマツコイ兵營、テネシーのフォレスト館府、ルイジアナ州キャンプリビンストンに約一ヶ年、それから最後の收容所であつた、カナダ境のモンタナ州ミゾラ收容所へと轉々、そこから解放されて、再び南方アーカンソー州のジローム轉住所へと三千哩あまりを、一人旅したのであつた。

斯くして漸く落着いた。同所も閉鎖となつて、このセンターへ居候として住み込んだのである。思へば、何處も同じ秋の夕暮れで

早起せねばならぬ所ばかりを漂ふた自分は早く朝寝の出来る所へと念願したものである。ところが去る日、迷案を發見した。そして自分は快を叫んだのである。その迷案と云ふのは斯うである。

『朝飯ぬき』と云ふ頗る簡單な事であつて、その有難い忘れ得ぬ案出の翌朝から、ゆつくり寝ることゝしたがとても工合がよい。

メスの鐘

眞珠灣爆撃當日の午後、オアフ島の中心に位するワヒアワ警察署の庭に、日本飛行兵士三犠牲の死体を並べて調査を行つてゐる。群衆は雲霞の如く押寄せ、そこに居合した西崎上等兵が

去る日スネーリング兵營から當所に來訪、久し振りに布哇の話も聴く事が出来た。

『僕は群衆に混つて名狀し得ぬ雰圍氣に包まれ乍ら、光景を眺めてゐると、君は日本語学校の教師だ、之を讀んで呉れと、命ぜられ、係官から渡されたば三箇の夜光時計であつた、感慨無量の裡に受取つて、内側の漢字を見るに、『吳』の一字が刻まれてゐるので、そのまゝ、讀んだ』と語る。

吾人は當時何れの所屬部隊が來襲したか知るよしもなかつたが、これで漸く判然した訳である。

其後の布哇は想像以上のかわり方、ホル、市内、下町區域の店舗の如きは一個の店口で内中には敬軒の店が別々に營業し

てゐると云ふに徴しても家屋の拂底が想はれる。最も目立つのは土産シヤップ、サンドキチシヤップ、王突場、そして字真屋の殖えた事である。と云ふ。収入の点に至つては予想外でラウハラ物の五六百帯を儲けると云ふゆゑ他は推して知るべしである。戦時熱に誘はされ大いに儲けて大いに使ふ爲にスボイルする青年男女の多いとも聽く。三年も布哇を離れてゐる間に驚く事ばかり。

でも西崎上等兵は、
今野さんこのメスの鐘の響は布哇の空襲警報そのまゝです。サイレンの設備はあるが夫れ空襲と云ふとガーンと方々から鐘が鳴り響きます。賞下は馴れてゐられるから布哇にお帰

りになつても驚く辛はないでせう。

其の後自分はメスの鐘が鳴ると布哇の空襲を思ひ出す。そしてパールハーヴァーが爆撃された當日の事が目前に浮ぶ。

夫婦喧嘩

夫婦喧嘩は犬も喰はぬと云ふ。熱して逆上の態度を示し果ては別れ話までに進んだ時は友の忠言も仲裁も耳には入らぬ。所が雨降つて地固まるの例に漏れず、夕夕リと老れた如くに納つた。曉は新替當夜の如き甘さに度り、仲裁の勞を採つた友などは眼中に無く、むしろ悪者扱ひされ、兄弟喧嘩も醜いものである。又親友同志のそれも感心せぬ。

感情の動物である以上四六時中
機嫌の好い筈はないだが喧嘩は
決して賞むべきでない事は誰し
もが持つ良心である。
我が重町参事員会と區長會
の睨み合ひは感心出来ぬ喧嘩
と逆はいかぬが面白かうぬ空
氣に支配されつゝある様に思
はる。
吾人は惟ふ現下の重大なる
過渡期に際し過去に蟠まる一
切を捨て、重責を負ふ西会か
一致協力以て去就に迷ふ居位
民に確たる指針を與ふべく努
力することこそ最大なる責任であ
ること。

悲喜交々

轉任と帰還を巡つて、悲喜交
々の事柄が次から次へと起つ

てゐるのを見たり聽いたりす
る。懐かしの、思出の深い山水に、
古き友情に接する涙ぐましさ
帰還の悦び、戦前の家郷へは帰
れず、知らぬ他郷に新しい生活
を立て直さねばならぬ味けな
さ、折角楽しく愛し睦み合つた
のに、親しい友と別れおぼな
ぬ悲しみ、戦争は地殻を破壊し、
友情を破る、人命を無茶に奪つ
て了ふと云ふ無情を人生に興
へるものだ。
戦争のお蔭で同胞は予想だ
しなかつた新らしい、珍らし
い世界と生活を經驗した、試練
の一幕であるとも考へられ、
でもいとし子、柱と頼む夫を奪
ふ大きな悲嘆の苦杯を吞まし
つゝある。此の度の戦争は戦
争をなくする為の戦争と政治
家は謂ふ。昔から雨降つて地固

まろと云ふけど、その雨は山を崩し、道を流し、家を倒崩し果は人命を失なはしめる、故に戦争に依つて永久の平和を望む事は、地固るとは思はれぬ、眞の平和は世界人が心と心、手と手を握り合ふの接合に依つてのみ續けられるとの感じを深くする。

吾人は今は世捨人に似て、剎那に生きてる、センチターの閉鎖に依つて別れねばならぬ、逢ふは別れの初めなり、だけれど別れし者は必ず逢へる様を感じます、所て別れて何十年振かに意外の所で再会し、やあ世界は廣い様で狭いなあと、手を握り合ふ事がある。

北極光を見る

布哇から十日の船底の旅を終つて桑塔のエンゼル島に大陸一夜を迎えた、自分の隣ベッドに浄土宗の窪川僧正、上に西本願寺布哇開教總長口羽義教師その隣が東本願寺の楠田監督であつた、十日振りに陸でねる快味と窓より射し込む満月に浮かされて、なかく寝れない、思ひは眞珠湾爆撃、羊の如く導かれ、ホームを出る自分の後姿へ、グイの声を浴びせた子供の声へ、走る、満身青い月光にさうして寝た夜を想ひ出す、夏の服装で雪のマツコイ入りをして、アイオン・ベッドが手につく様を寒さに自らベッドを作つた、冷たい経験でも夜九時になると自ら吾等の室を點呼し、グッドナイト、ボイスと言残して帰る、あそここの司令官ロッキヤース中佐の温情は今尚私の

脳裡を放れない。

或夜の事である點呼を終つて
歸つた司令官は立戻り、みささん
珍らしいものを御覽なさい、大陸
入でもめつたに見られぬ NEORA
が見える、風を引かぬ様、オーバーを
着て出て見るがよからふと云ふ、
四十八名の同僚はぞろ／＼外へ出
ると成程北と称する上空まで夜
光が輝いてゐる、流行歌のどこかに
「オーローラ見ゆるシベリヤの」と云ふ文
句があつたが、実に雄大なもので
あつた、自分の拙ない文に現はせ
ぬ神秘の景ではあつた。虹を直立
させたとも云はふが、天下の奇景
であつた、自分ほ北極光を讚美す
る、もう一度見度い氣もするが、今
は、日本の捕虜勇士達が住んでゐ
るから、もう駄目だ。氷河の流れ
跡もあり、青々とした樹が澤山で
いゝ所だつたのに。

俺も太公望

モンタナ州、ミソラのスネックリバー
は絶えず美しくしい水が流れ、晴
れた空を映してゐた、故に吾等
は「ミソラ收容所」と書く時「美空」又
は「水浦」と書き、常に四方に聳ゆ
る山の美しさと、その側を流れ
る川の水のキレイさに親しんだ
ものだ。

その川にはマウンテンツラウトを
初め珍らしい魚が棲んで居て、
吾々インタニは毎週二回釣りに
行く事を許されてゐた、何時
行つても釣つた事は無いが、魚
釣りの好きな自分ほよく行つた。
或日ホームの前で遊んでゐる
セツ位の女の子に逢ふ、それが布
哇のホームで、何時帰れるとも當
の無い父を待つ我が子の年頃

なのに懐かしさと可憐さを覺えた
その子は云ふ、日本入殿よ、魚を釣つ
て下さい、それで僕はよし釣つて帰
つてやるから四時頃此處で待つ
て居れと答へた、そして四時頃手
ぶりでそこを通ると魚はと向ふ
今日はだめだった、今度は必ずと
云つて別れたが悲しさうに僕の
後姿を眺めてゐた、次の土曜日ま
た逢ふた、そして魚を釣つてくれ
と云ふ、自信たつぷりに約束した
がまた釣れぬ、それで友達に小さ
いのを一匹貰ふ事とした、友人曰く
こんなのだめでせう、大きいのを上
げろと云ふので、その子供の事を
話すと、友達の目が涙で光つてゐ
た、たぶんあの人もあの女の子
位の子供があるんだつたら、ふ、
そしてあの幼子を悦ばした事を
今思ふと俺も魚の釣れない、太公
望であつた。

松の廊下

松の廊下の入口で上野が待
てと大喝一聲、腰の物を引き抜
いた、浅野公を思ひ出す十二月
十四日の出来ごと。
日米開戦して一週間目の午
後四時であつたと記憶する、ザ
ンドアイランドの收容所の野菜畑
から帰つた岡野開教使が、ゲート
で身体検査を受けたが、クレート
に使用した薄い武が、作つた
小刀、様のものが問題となり、二
時間余も立往生した事がある。
自分は丁度その時「シヤワー」を取
てゐたが、七日から廿一日まで
着のみで、髪はボウク、歯も磨けず、
風呂へも洗面もハンカチ一枚であ
つたので、ハンカチで身体を拭きつ
つ、整列の線に走つた、そしてぬ
れねづみの姿で列び、ヌアヌ嵐に

吹きつけられ乍ら日の暮れる
迄まっばだか。でも氣がはりつ
めてゐるので風和も引かなか
つた。

それから明け正月八日か
と思ふがスピン事件と云ふ世
にも珍らしい問題が起つた、そ
れはこうである、メスのスピンが
一才足らぬと云ふので前回同
様またまるはたか、そして天幕
とアーミーカット(寝台所持品を全
部調べられたが晝飯を前に十
一時半から二時まで、天日に晒
されて皆が腹がペコくてもみな
頑張つた事を思ふと、此の頃の
寒さなんかは恐れてなるもの
か。

日本少年の恥

憧れの日本映画を久しぶりに
観る、初夜の見物人は口を揃へて

面白くないと云ふ。

自分は友達からヤレンレと勧め
られてOKのメスでセンター生
活二度目の映画を観た、ミキマ
ウと國定忠次のはあまり古く
て、おまけに忠次の写真真はカット
が多くて、うんざり、前夜観た
と云ふ人々の批評を裏書する
が、彌市の家、ほととも氣に入
つた。

貧困洗ふが如き車夫夫婦の
生活でも千の藏より子は宝の主
義で子供の養育に、教育に努め
た賜ものとして立派な弥市
の家が建てられた、その中に日
本少年の眞の姿が写されてあ
つて目頭の温まる感を深くし
た、筋はこうである、或日子供
の歡樂郷である、常設カーニヴァル
場で、次男の秀二は、卵を胴体と
したオモチヤ飛行機(母と二人で造つた

もの)を賣り、弟(三男)は花束を賣つてゐる。そこで花を買つた外人夫婦が五円の紙幣を出す。釣銭がないので兄の秀二の所へ走り寄り、秀二は方々馳り廻つて釣銭をかへるに手間がかかり、元へ歸つた時は外人夫婦が去つた後、これは大変と、その釣銭を渡すべく走り出す。途中小石にけつまついて膝を痛めた所へ通りかゝつたのがスローモーションの車夫、父であつた。秀二は事情を語ると、しかたがないから貰つて置いと、父は云ふ。秀二はそれだめです、日本少年の恥になります、どうしても之を戻さねばならぬと頑張る。車夫殿息子のこの一言に感激し、さあ秀坊乗れと云ふや、かぢ捧を握り、スロモが超特急と早警り一目散、かくしてパンクの爲

め停車中の車上に外人夫婦を見付けて、釣銭を渡す。はからずもその外人は新聞記者であつた。彼氏は秀坊と父の説明を聞き満面に悦びの色を浮かべ、眞の日本少年の実相を君に依つて知り得て嬉しいと秀坊の手を堅く握つた。このあたりで、ほろりとさせられた。自分は、殊市の家は教育映画として一般に推薦したいが、眞はもう他のセンターへ送られた。

末期の一言

故「ルースベルト大統領は世界史上に偉大なる指導者となつた。環境とよくこれに對處した稀に見る天稟は彼をしてワシントン・リンカーン、ジエフソンと肩

を並べしめた。

智力と卓越せる体力を具備せる彼は若盛りは無慙な病魔に襲はれたが、よく之を克服、三期の任期を無事終了、第四期當選を実現せるは、史上最初のアメリカ大統領となつた。

故人の死は勇敢な闘病十五ヶ月後の四月十二日午後三時廿五分（中央戦時タイム）であつた。今後幾代の間世界より戦争及び戦争の脅威を除く大目的の爲、執に倚つて精励中突如脳溢血に襲はれた。時午右一時十五分少し過ぎの事で、見る／＼人事不省に陥り遂に平静の中に長逝した。

晝憩時間に大統領は執務状態の新肖像画を描く、紐育市のソ聯人口ピンス画伯の前に腰を掛けてゐたが、突然従妹のデラノ嬢に激しい頭痛を訴へ、後頭部に右手を當

た、そして人事不省になるに伴ひ、両眼を閉じた。故大統領の末期の詞は、びとく頭痛がするの一言であつた。

嚏の話

筆蹟は人格の表現となり、言辭はその人の知識を語ると云ふ。自分はずれが當嵌るかに疑ひを持つたが、或程度の肯定はする。貴公子然たる紳士の舌先から、野卑な言語を聴き、粗野な老爺の口から、他行の言葉を聞く事がある。故に人間も御都合主義だと考へ、そして境遇に支配さるゝ事の多い事を想ふ。

春陽の一夜、蘄の話からへーヒヴァとくしやみの話に花を咲かした、友人の話に依ると、五回以上嚏をする人は、へーヒヴァに罹

されてゐる」と自分はまたその
経験を持たぬが、誰か自分の
噂をしてゐると出るとも云ふ
話には聞いた。社の小米若は三
回嚏すると誰かに好かれてゐ
ると青年らしい事を云ふ。淺川
氏は加州で二十年間ヘイウワー
で苦しみ数知れぬ程嚏を出し
たと云はる。その嚏の声と云ふ
か音と云ふかには色々な種類
があつて面白い。女性的の身振
をしてゐるのに底力あつて壓
へつけるが如く甘回も嚏をす
る男もあり象の様な大男がハ
クシヨウ……と澄み透つた音を
立てる。

御婦人方はその点とても上品
でハンカチーフを口と鼻とにあて
、フクシヨウと猫の如くやさし
く奥床しく、もう一遍聞き度い
様な音をたてる。

今は亡き人である自分の母
は鼻紙を懐中から出して開い
て鼻先に当て、嚏をしたもの
だ。それを見習つてゐた自分
は嚏の度に母を想ひ出す。そ
してその都度ハンカチの代りに
平手を当てる。そして、済んで
かうハンカチで手を拭く。だか
らキレイなもので、転住帰還で
出所の爲め挨拶に來られた百
以上の人の手を握つたが、まだ
一度もあなたの手が穢ないと言
はれた事はない。嚏した後の
心地よさは誰もが持つ快感で
ある。

砂上の樓閣

凡人は動もすると宗教は現
世の活動期を過ぎた老人に喜
悦と慰安を與へる信仰位に見

て一般吾人の深く顧みべき大
真理のあるを忘却する。

宗教とは如何なるものか、これを
徹底せしめ得るは至難ではあ
るけれど、思ふに、青年はよ
り多く、眞実の信仰に目醒め、然
して若社会に善處せねばなら
ぬと云へる。

宗教は吾等の吾界になくて
はならぬものであつて、又人生
の羅針盤である。世は日進月
歩（柵ぬにも）する、そして激烈な
る逆境と戦はねばならぬ、運命
にある我々は、強い信念を持
つて、如何なる壓迫にも泰然と
して社会に濶歩するの勇氣を
持たねばならぬと思ふ。

「艱難汝を王にす」とか
「逆境は人生を作る」とかの
格言はともに確固たる信念と
烈々たる勇氣を把持する躍進

の者にのみ興へられたる痛快
なる言葉である。

人間は絶えず指導者を要求
すると云ふ事が、「永遠の眞理」
である以上、人生得意の頂上に
飛躍するの時、反省の心を興へ
又失意のどん底に彷徨する時
も、信仰は絶えず光明へ導く。
要するに信仰のない生活は
砂上の樓閣に等しい、我等は恵
まれざるの生活をする限り強
固な信念を持たなくてはなら
ぬ。

痴情を誠む

戦争は破れかぶれ捨鉢氣分
を人間に興へるのが悲しい。
各方面の新聞の三面によく見
る事であるが、乳臭い赤丁年者
が痴情狂ひをなす、社会の風紀

を紊乱せしめてゐると、誠に寒
心の至りではある。

我々は斯うした生活にあり
ながら、大和民族としての待
面を汚さざる事こそ、日本人の
誇りであり、常識である。心
掛けてゐるのであるが、過去二
ヶ年半のセンター生活に於て、或
るセンターにその醜き様態を出
した事を遺憾とする。

我がアマチには幸にして、没
常識漢を出さずして、終局に應
へんとしてゐたのに、極最近子
供連れの一家族は、住むに家な
く、就職の當もないのに、転住
を余儀なくされて、出所した
仄聞するに、妻の不行跡からと
か、然して、その相手は妻帯の某
であつて、その妻は自殺未遂の
悲境に沈んでゐると、果して真
なりとせば、我人共に許し得ぬ

言語同断の行と云はざるを得
ぬ。

吾人はやもめ男女の品行云
々を聞かされるが、それは噂に
噂を産んでゐるかに、想はる
兎角、婿には世人の眼は注がれ
る。だが、それは彼女達を自覚せ
しめ、女は弱し、されど母は強し
の堅い信念を持たすのである。
社会問題研究者は、こうした
乱世に於ては、荒んだ心を持つ
ものであるが、過去に於て艱苦
と闘いぬいた者は、常軌を失は
ず、自制心に富むと云つてゐる。
吾人はセンター生活にて、妻帯有
夫の間に、あられもせぬ痴情関
係を悲しむ。然して、自己の立場
を乱用して、女たうしをするが
如き妻帯者の許し難き卑しい
心の所有者に、大きな制裁の來る
事を知らねばならぬを、惟ふ。

初夏来る

縁の深い春に入ったと思つ
てる中にも初夏が来た。何んと
小鳥の様な蝶の多くなつた事よ
もう夏来ると告げるが如くに羽
ばたきも喧しく飛び廻る。追へと
も去らぬ。あの執念深き事よと嘆
ずる人の多いを思ふ。

螢でも飛んで来さうな涼し
い夕暗に、ふんわりとホおをなで
て過ぎ去るそよ風、宵待草の歌
を想ひ出すのも吾ひとりではあ
るまい。
日足も長くなつてお百姓の
時節だのに今年は所内のガーデン
に野菜が見えぬのは淋しく思ふ
が軒先、帰還のソラ、した心はこゝ
にも現はれてゐる。去年はこの
畑で美味しいキャンダソアも胡瓜

も出来たんだが、手をつける氣
になれませんと語らる。無理か
らぬ事である。學校も六月六日
で閉ざされると云ふから來月
に入つたら出所者が殖えて寂
しくなる事であらふ。

英靈を祀るの曰

四海同胞てふ大理想の實現は
遠い昔より世界人の待望止む
なき大念願である。指導者達
が文化、宗教、経済を通じて總
る角度から努力されし多くの
事實は文獻をして文を語りし
めてゐるを見る。
然して獨裁者、主權者達はよ
りよぎ世界の建設に武力に訴
へた史實も多いとしてその争
鬪に依つて失はれた尊き犠牲

の多きにも驚く。過去に於ける指揮者達は何れもそのスタートは輝かしく終焉は若杯の二字に盡きてゐる如くで第一世界大戦もその轍を踏んで遂に第二次世界大戦を生み化学に依る塵殺的戦争に導いてつた。然して夢想だにしなかつた大量の犠牲者を出すの悲惨事は世界人類を泣かしてゐる。ツルーマン大統領は獨この敗北を以て今次戦争の半ば勝利を宣言したが前途にわたかまる暗雲の去る日は何時か吾人は招魂祭を迎へて感慨無量の裡に大理想実現の犠牲者である今次大戦に散華せる幾千万勇士に深甚なる敬吊の意を表し英靈を祀るの日にベターの世界実現を希ふものである。

X
X
X
X
X

心臓の強さ

パイオニア紙日本語欄は今回内務省管下のWRA本部を相手取り版權侵害の訴訟を提起すと書いたら、いちろう初め社員達の心臓の強き事よと思はるゝ多くの讀者のある事が想像される、それで理由を説明する事とした。

一九四五年發行五月號WRAの新聞雑誌抜萃要旨となす刊行誌の題に我社の世界情勢に使用しつゝある大アンテナを使用してゐる、WRAが吾等のアンテナが氣に入つて使用するのなう許してやつてもよいが然し無断拜借とはけしからんとあつて訴訟の詔にまで進んだのである。屢が十九弗や十六弗の月給取り

では費用に困る。でも勝つたら大金が要る。だから社債を募集してはとの迷案もあつたが、戦争が濟んだ後で判決が下り、何万帯貰へるか心配である。殊に債権者がチリ／＼バラ／＼になると社債を返還して廻つて戻す人もなかつた。旅費に倒れるじやないかと、それもそうでカンスの―と云ふ事となる。それでわしや訴訟をやめる事にしたタイ。

美はしき人生

人間は神の創造に成るが故に神に非ず爲に過ちの多きを思ふ時世に間違ひの多き事よと嘆かざるを得ぬ。過つては改むるに憚る事勿れの古諺、汝の罪は悔ひ改むるに依りて許さるべし、との聖書の句は共に吾等の味ふべき金言である。己れの過ちを改むる謙遜の

心無く、隠蔽或は轉嫁を以て、心を糊塗せんとする隣れむべき心情を有するは劣の劣である。偉人ジヨウヂ・ワシントンと櫻の木を忘れてはならぬ。互譲の精神を有ち常に反省を怠らず、謙遜を旨とし、眞に住みよき社会を創り、美はしき人生の營みに心せねばならぬと思ふ。

児童の教育

六月六日を限り所内の學務一般が閉鎖された。我等はセントタ―閉鎖に伴ひ當然の事とは思意するが、新学期開始迄幾何の學童が残留するかを考へる時、その前後策を講ずるの必要を思ふのである。マイヤ十局長は「學童のある家庭は直ちに通常米人社会に転住し児童を地方

の公立学校に復校せしむる事を得れば、平素より重大關心を有する親達の爲有刺である。転住所に居住する青少年の米國市民としての將來は自國に存するものなれば、彼等に適應する相當の教育を附與する事の最も緊要なりとの点に付ては、亦職は居住民の意志と一致するものがあるが、斯る教育を転住所に於て施す事は不可能である。教育とは單に学校教授を意味するのみでない。却つて普通の社会生活の中に入つて、諸他の米國人と同様の生活を營む事である。依て亦職が児童及び青年に對し、彼等に長期に亘る転住所内生活が發育時代を超過せんとするを憂ひ、能ふ限り普通社会に帰還し、入学して友人を作り、又米國人と共に彼等の

なすが如き社会生活に預らん事を希望すると、閉校方針の不變を語り、先般當地の講演で湯淺博士が言及せし学童に對する意見を裏書してゐる。吾人は何れにせよ、現實に徴して善後策の必要を力説するものである。

向日葵

初夏に入った、向日葵の花がそこにも、こゝにも見える、優雅な色、芳ばしい香をアーンと放つが如き風情である。

向日葵の花は太陽について顔を廻すから、日廻り草と書いてよい場合もある、日本では大變重宝がられる。眺めてよし、そしてあのキレイなうまそうな實は、鳥の飼料として多くの需用が

があり、又料理の上にも使用される。従つて栽培法が入念なもので、美事に成長するを見る。然るにコロラド州アマチ転住所(ここ)を中心にして野生の向日葵を見る。頗る貧弱なもの。可愛みだ。やうな。自分は美事に育てたい氣に支配されて、昨年の夏移植を企てた所、友達が「大眼王を頂戴した。そして彼氏曰く、専門的に栽培されて、市場へ出すものと違ひ。」この向日葵は毒を有つてゐる。よく見受け、る。処であらふ所の毒をくふんくふん云はせ、眼をこすり、腫を發する人達は皆この向日葵が發散する毒素の原因だ」と、それで移植は断念したが、またその季節となつた。所民は今年には少し早目に花を切り、拂つて予防につとめては如何。

静かふ一とき

小川の静かなせしらぎ、緑樹の蔭の涼しさはたまらなく自分の心をゆるがす。そよ風がホホをなで、過ぎる。眼界の及ぶ限りの曠野をじつと眺め、思ひは過ぎにし日に及ぶ。米大陸一万五千哩、二十州にまたがつての無銭旅行の種々相が夢の如くせまつて来る。アマチとも別れか。あのブラックもEも、あの遠か上方に聳へるウォータータンクも、空家となつてゐる監視臺も、木も草も皆思ひ出の種子となる。戦争のために見られぬ所を見、知り、意外な友達も出来て幸であつた。又、何時の日に再会に恵まれりや。吾が心は乱れる。空はくつきりと晴れて自分は夢を歩く。

七月三十一日